

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100439
法人名	特定非営利活動法人 じゃんけんぽん
事業所名	グループホーム じゃんけんぽん群馬町
所在地	高崎市棟高町1257-5 (電 話) 027-350-3191
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月20日

【情報提供票より】(平成21年12月 23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人 非常勤 5人 常勤換算	6.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	又は1日 750円		

(4)利用者の概要(12月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2 1 名	
要介護3	4 名	要介護4 4 名	
要介護5	0 名	要支援2 0 名	
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岸医院 ・ 小池歯科 ・ ウェルライフ三愛
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

創始者は障害がある人や高齢になった人が地域で安心して暮らせる町作りを目指して、平成10年宅老所からスタートし、2年後NPO法人のグループホームを群馬町に開設している。ホームの理念に、「あなたが自分らしく自由に笑顔で暮らす為に、あたたかい心で関わります」と掲げている。職員は「自分らしい自由とはなんなのか」を思考し、帰宅願望のある方と気の済むまで一緒に歩いたり、眠りたい方には昼間でも横になってもらったり、一人ひとりに温かい心で接するよう日々介護実践に取り組んでいる。また、高齢者、障害者が地域で暮らし続けられるために、高齢者や認知症の方のよろず相談所を開設して、相談窓口に見える高齢者や認知症の人達、その家族に支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価を受けて、災害時の協力は隣宅に依頼ができ、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、全職員は評価の意義を理解していて、職員は自己評価の全項目について意見を出して管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に運営推進会議は開催され、入居状況、行事運営、自己評価及び外部評価結果報告、インフルエンザ等の議題について話し合われている。行事については人が集まるので感染症の問題があり検討が必要との意見が出されたので、運営に活かしている。今後、会議に出席し易く、地域に密着している方達の参加メンバーの検討を望みたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記しており、入居時に家族等に説明し、玄関に掲示している。また、毎月家族に渡す入居者の近況報告書に意見要望が書ける欄を設けて、家族からの意見、要望等を出し易いようにし、面会時にも働きかけをして出された意見は運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	天気の良い日は近隣への散歩やコンビニエンスストアに買い物に出かけ、近隣の方と挨拶をしている。近隣宅から果物のおすそ分けや野菜、手編みのもの等を頂いている。地域の納涼祭、高校の文化祭に招待され出かけている。年2回行なわれる地域の道路清掃に職員は参加し、ホームは認知症よろず相談所として地域の方に利用して頂けるよう努め、地域の方との交流を図っている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成10年に宅老所を立ち上げ、創始者が理想とする「高齢者も障害者もハンディを背負いながら地域で住み続けられて、安心して暮らせるコミュニティの構築をめざす」を掲げ平成12年にNPO法人のホームを開設する。ホーム独自の理念「あなたが自分らしく自由に笑顔で暮らすために、温かい心で関わります」は職員全員で創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、会議の折に理念のあり方を確認している。依存度の強い方が介助を希望する自由もあり、理念の「自分らしく自由に…」と理念に立ち返って思考しながら介護の実践をしている。また、入居者の毛筆書きの理念をホールに掲げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや高校の文化祭に招待されて出かけている。年2回行なう地域清掃に職員は参加している。近隣宅から果物のおすそ分けや衣類等の提供があったり、ホーム前の畑を耕作する方から野菜を頂いたりしており、ティータイムにはその方達を招待している。また、歌や踊り、習字等の地域のボランティアが見えるなど地域の方との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、全職員は自己評価の各項目に目を通し、意見を出し合い管理者がまとめている。評価結果はファイルして玄関に置き、事業所のホームページにも掲載している。昨年の外部評価から、災害時の協力を隣家の方に依頼しており改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議は行われ、入居状況、行事運営、評価結果等を議題に意見交換をしている。インフルエンザの流行している時期にイベントの実施は問題との意見があり、今後は行事の実施時期検討を考へて行く事にする等サービスに活かしている。会議のメンバーに、地域住民の参加者がいない。	○	ホームと地域との交流促進を図れるように、地域メンバーの参加を積極的に働きかけるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から派遣される介護相談員の訪問があったり、認知症を地域で支える啓蒙活動の講演会の寸劇スタッフや講師の派遣依頼があったり、また入居者について報告や相談等をしている。市と行き来して、サービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料支払いに見えた時に、健康状態や暮らしぶりの近況報告書を各家庭に渡している。来られない方や急ぎの場合は、電話で報告をしている。また、年4回発行の「グループホームじゃんけんぽん群馬町」のお便りにも掲載をしている。金銭は必要時に立替で、各入居者毎の金銭記録ノートを家族に提示し、支払って頂いている。家族の了解を得て千円単位での金銭を持ち買い物をする入居者の方もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記し、玄関に掲示している。毎月の近況報告書の下欄に要望等を書き込めるように欄を設けたり、家族面会時には生活ぶり等が記録されている介護日誌をご覧なってもらい、その折に意見要望等への声かけをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間は職員の異動はなく、職員間のコミュニケーションを心がけて、福利厚生や職場の環境改善に取り組むをして離職や異動を抑える努力をしている。職員が変わる場合は本人が入居者に伝えて、人としての心の交流の場面としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は県及び地域密着型サービス連絡協議会の主催する研修に参加し、報告書を作成、会議の折に報告をしている。報告書はファイルし、職員間で共有できるようにしている。法人内の講習会(インフルエンザ予防、コミュニケーション、認知症等)は、毎月開催している。入職者には管理者や先輩職員がついて指導をし、働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、講習会では同業者との交流を持ち、レベルアップ研修会のホーム相互訪問等の活動を通して、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学して頂き、雰囲気を知ってもらえるようにしている。入居後は馴染めるようしっかりと関わり、家族にも相談をしながら電話連絡を密に行い、面会等で協力して頂く等工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活文化についての話を聞いたり、軍歌や童謡などの歌を教えてもらったり、物を大切に生きる方等を学んでいる。また、かるたやことわざクイズ等でレクリエーションを一緒に楽しみ、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけて性格を把握し、言葉や表情、行動等から思いをくみ取っている。帰宅願望がある時には気が済むまで一緒に歩いたり、家族と連携し本人の思いに添えるように努め、意思疎通が困難な場合は家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に見えた折に意見や要望を聞き、日々の介護時のきずき等をノートに記録して置き、月1回ケア会議において入居者の一人ひとりについて話し合いがなされ、介護計画を作成している。介護計画は、家族の了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しているが、毎日のモニタリングやアセスメントを行い、心身の健康状態や生活面等の変化がある場合は随時見直し、新たな計画が作成されて、変更を申し送りノートで職員に伝え実施されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や墓参り、自宅までの送迎等に家族の同行が得られない場合は、職員が同行支援している。訪問美容となっているが、希望があれば好みの美容院にも送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めているが、2/3の入居者は協力医をかかりつけ医としている。毎月かかりつけ医に定期通院し、訪問看護は毎週見えている。インフルエンザの予防接種や発熱時等は協力医の往診をして頂き、歯科や他科の医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針を作り、入居時に説明し本人、家族の意思確認書を書いて頂いている。また、状態の変化及び家族の意向など随時確認して繰り返し話し合いをして、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導や介助時には、プライバシーに配慮した小さな声での声かけや対応をしている。記録物は事務所に保管し、介護記録はホールの隅に置くが布で覆い見えないように取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間に眠りたい様子であれば横になって頂き、時間をずらして食べて頂いたり、家族に会いたいと希望があれば電話で連絡をしたり、可能な限りその方のペースを大切に、希望にそって支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵えや食事の準備、後片付け、毎日のおやつ作り、日曜日には入居者の好きなうどんや蕎麦打ち等を職員と一緒にしている。職員は入居者と会話しながら同じ食事を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日としているが、希望があるならば毎日でも入浴ができる。拒否する方には更衣やタイミングをずらして対応している。季節の柚子や菖蒲等を利用したり、名湯温泉やカラフルな入浴剤で楽しめるよう入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は食事の準備や後片付け、朝のカーテン開け、毎日の毛筆での献立書き、花壇の手入れ等、一人ひとりの力を活かした役割を担っている。また、犬の散歩や近隣の店まで買い物に職員と出かける等楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や花に水をやったり、近隣の店まで買い物に出かけている。デイサービスの事業を実施しているので、送迎の車と一緒に乗車して外出を楽しんだりしている。また、月に1回は花見や林檎狩り等のドライブする機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、全職員は、玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、夜間を除いて玄関の施錠はせず、入居者は玄関から自由に出入りをしている。職員は入居者の見守りをし、出かけた入居者に声をかけて一緒に散歩をして帰ってくる等支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回の火災訓練を消防署の指導の下に実施し、避難経路や避難場所等の確認をしている。21年は昼間想定は実施したが、夜間想定は行なわずにシュミレーションをしている。災害協力の依頼は、隣宅にお願いをしている。また、今年度中にスプリンクラーを市の補助金を得て設置予定となっている。	○	火災訓練のうち1回は夜間を想定して実施をして頂きたい。また、地域への災害協力の働きかけを引き続き行われことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者を利用し、その献立に野菜を増やして提供している。日曜日は入居者の希望を聞いて、入居者が職員と一緒に食事を作っている。食事量及び水分量(1300～1500mlを目安)はチェックし、その情報を共有している。入居者の体調に合わせ嚥下障害のある方にはミキサー食や粥食等、便秘症の方には野菜を多くする等支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール兼食堂は南に面していて明るく、畳のコーナーがありテレビ観賞の場になっている。ホール壁には入居者の描かれた油絵や習字、入居者家族の絵、昭和初期の写真が貼られてあり、入居者の暮らした生活がよみがえりコミュニケーションが生まれる。また、入居者がその日の献立を毛筆で書いて「おしながき」として掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた筆筒、机には好みの本、観葉植物、縫いぐるみ、家族の写真等が持ち込まれ、カレンダー、時計、本人の描いた絵、習字などの作品が壁に架けられている。生活スタイルに合わせてベッドや蒲団を敷いて休む等居心地よく過ごせるように工夫している。		